

調査の概要

この調査は、①家計の資産・負債や生活設計などの状況を把握し、これらの公表を通じて金融に関する知識や判断力を身につけることの大切さを広報すること、②家計行動分析のための調査データを提供すること、の2つを目的として1953年から実施しています。主な調査項目は、金融資産・負債の状況のほか、生活設計、住居計画、決済手段などです。調査方式、調査時期、回答世帯数は以下の通りです。

	二人以上世帯	単身世帯
調査方式	インターネットモニター調査	
調査時期	2022年6月24日（金）～7月6日（水）	
回答世帯数	5,000	2,500

調査結果

本コーナーでは、調査結果（二人以上世帯調査）の一部をご紹介します。

「家計の金融行動に関する世論調査（2022）」の結果を公表しました！

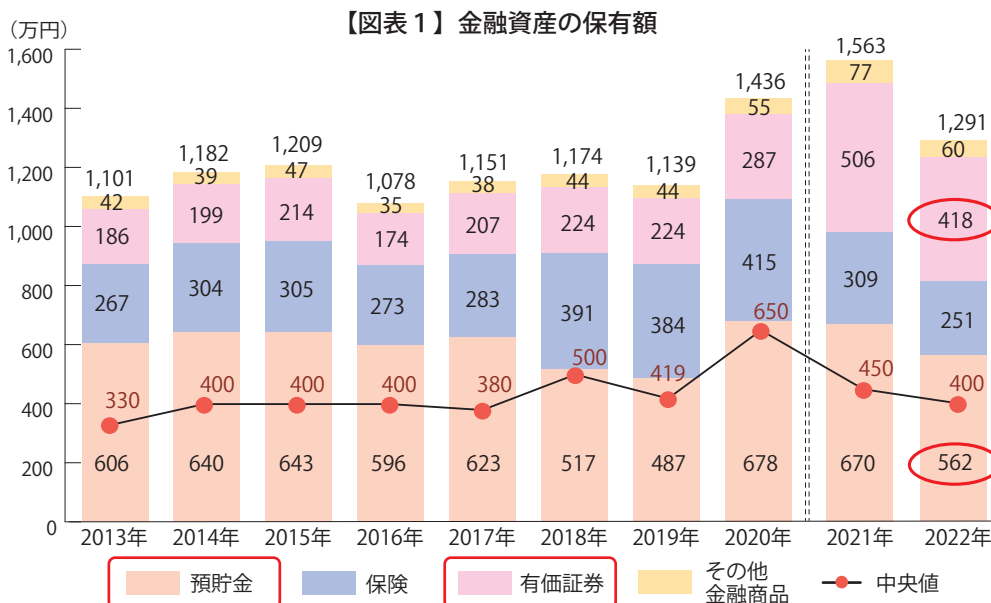
金融資産の減少理由として、「定例的な収入減少による金融資産の取り崩し」と回答した世帯の割合が高かったほか、「株式・債券価格の低下による評価額の減少」、「耐久消費財購入費用の支出」、「旅行、レジャー費用の支出」と回答した世帯の割合が前年よりも増えました。

金融資産の減少理由

金融資産の保有額（平均値）は、預貯金および有価証券（株式や投資信託等）の減少を主因に前年よりも減りました【図表1】。

（注）本調査においては、金融資産を、「運用のためまたは将来に備えて蓄えている部分」としています（預貯金のうち日常的な出し入れや引落しに備えている部分は含みません）。

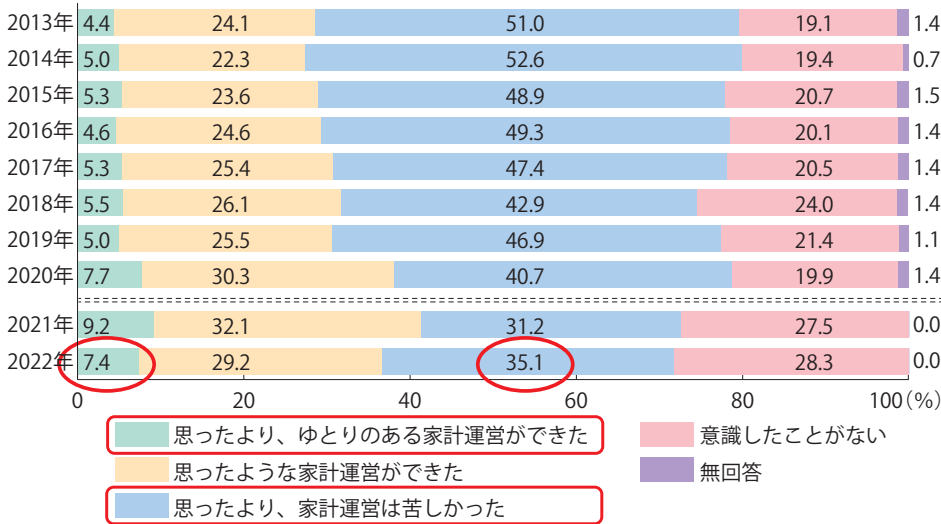
金融資産^注の保有額



※2021年に調査方法を変更したため、データが不連続となっている

家計運営の評価

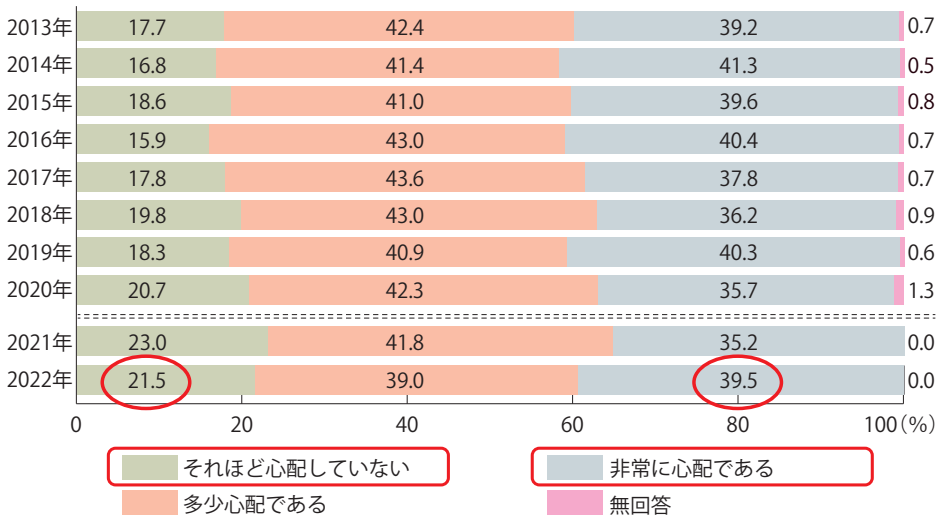
【図表2】家計運営の評価



過去1年間の家計運営の評価については、「思ったより、ゆとりのある家計運営ができた」と回答した世帯の割合が前年よりも減り、「思ったより、家計運営は苦しかった」と回答した世帯の割合が増えました【図表2】。

老後の生活への心配

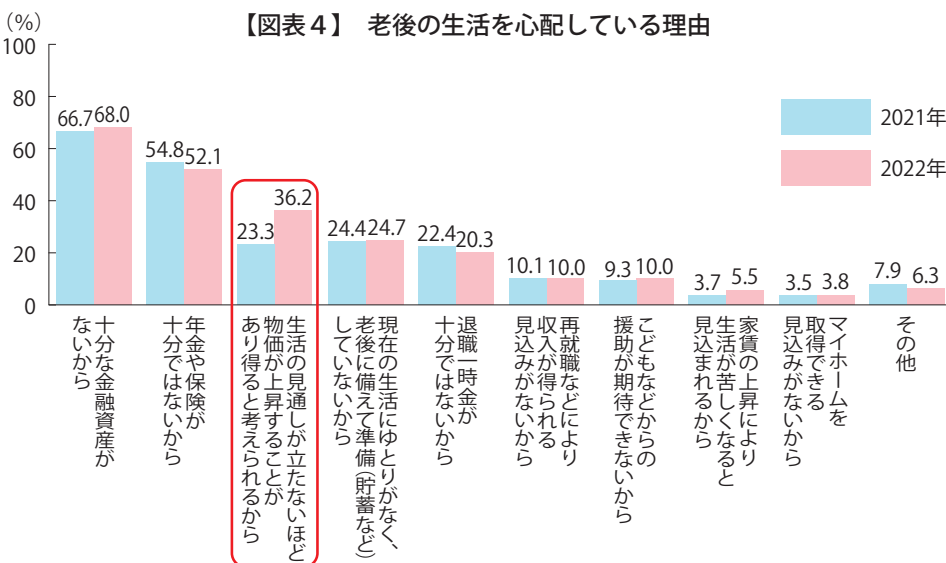
【図表3】老後の生活への心配



老後の生活への心配としては、「非常に心配である」と回答した世帯の割合が前年よりも増え、「それほど心配していない」と回答した世帯の割合が減りました【図表3】。

老後の生活を心配している理由

【図表4】老後の生活を心配している理由



老後の生活を心配している理由については、物価の上昇による影響を懸念する回答の割合が増えました【図表4】。

上記以外にも、本調査では家計の金融行動に関するデータを数多く公表していますので、「知るぽると」のWEBサイトをぜひご覧ください。

